

令和2年度 維持管理状況(8月1日～31日)

<工場設置計器の測定結果>

清掃工場名	焼却能力	炉番号	処分した一般廃棄物	ごみ焼却量	燃烧室ガス温度	集じん器入口ガス温度	排ガス中の一酸化炭素濃度(煙突) (O ₂ 12%換算)	冷却設備及び排ガス処理設備に堆積したばいじんの除去
	t/日			t	℃	℃	ppm	
有明	400	1号炉	燃 ご み	5,538.99	941～1,058	172～176	7～45	ボイラ設備の除じんはボイラストロブロー又はボイラ槌打装置により毎日実施する。ろ過式集じん器の除じんは空気式自動洗浄装置により毎日実施する。
		2号炉		5,338.55	975～1,119	171～175	3～35	
千歳	600	1号炉		13,786.04	920～1,162	165～174	12～19	
江戸川	600	1号炉		7,192.04	873～969	170～171	1～7	
		2号炉		7,076.55	866～989	170～171	0～7	
墨田	600	1号炉		13,581.38	991～1,193	179～191	1～4	
北	600	1号炉		12,661.17	962～1,083	160～164	0～17	
新江東	1,800	1号炉		3,591.79	989～1,160	168～171	0～2	
		2号炉		焼却炉停止中				
		3号炉		12,292.67	923～1,164	168～177	0～17	
港	900	1号炉		1,370.52	1,042～1,167	166～169	2～38	
		2号炉		7,401.52	970～1,185	168～170	0～30	
		3号炉		7,246.42	839～1,190	165～172	0～497※①	
豊島	400	1号炉		3,376.86	812～923	162～163	2～66	
		2号炉		4,982.49	830～927	160～161	0～100	
渋谷	200	1号炉		2,459.91	943～1,037	145～156	0～103※②③	
中央	600	1号炉		6,090.54	937～1,073	149～153	4～21	
		2号炉		7,769.11	910～1,038	149～153	0～34	
板橋	600	1号炉		842.80	1,013～1,168	160～163	1～5	
		2号炉		2,934.68	1,016～1,176	153～157	2～5	
多摩川	300	1号炉	3,811.08	903～1,020	155	2～6		
		2号炉	2,868.27	904～1,007	150～156	1～7		
足立	700	1号炉	8,206.04	890～1,039	173～175	3～11		
		2号炉	8,090.67	868～1,054	172～173	0～7		
品川	600	1号炉	3,224.30	1,005～1,150	168～171	0～35		
		2号炉	144.70	1,006～1,037	170	0～1		
葛飾	500	1号炉	6,795.33	953～1,113	159～161	3～56		
		2号炉	6,636.46	933～1,068	160	2～90		
世田谷	300	1号炉	919.25	937～1,003	168～183	0～43		
		2号炉	3,282.42	904～995	168～194	0～84		
大田	600	1号炉	7,939.58	865～1,069	154～174	3～52		
		2号炉	7,954.05	875～1,034	147～162	3～49		
練馬	500	1号炉	7,182.58	866～1,066	157～171	1～91		
		2号炉	7,126.08	884～1,041	157～170	3～102※④		
杉並	600	1号炉	8,111.75	902～1,017	153～169	0～65		
		2号炉	7,325.48	902～1,014	152～161	0～25		

注:大田清掃工場 第一工場、中防灰溶融施設、破碎ごみ処理施設は休止しています。

測定値が維持管理計画値を超過した理由(※)

※① 港清掃工場 3号炉 令和2年8月14日(金) 9:00、10:00

排ガス中の一酸化炭素濃度が、一時間平均値で9時に497ppm、10時に157ppmを記録した。

原因は、ごみ質の急激な悪化により、焼却炉内の燃焼状況が悪化したことによる。燃焼バーナーを使用し、燃焼状況の改善を試みたが改善が見られなかったため、立下げを10時16分に開始した。その後燃焼が安定したため再立上げを行い、10時30分に立上げが完了した。

※② 渋谷清掃工場 1号炉 令和2年8月1日(土) 12:00、令和2年8月5日(水) 4:00、6:00、10:00、令和2年8月6日(木) 8:00、令和2年8月7日(金) 3:00

排ガス中の一酸化炭素濃度が、一時間平均値で令和2年8月1日12時に72ppm、令和2年8月5日4時に65ppm、6時に77ppm、10時に90ppm、令和2年8月6日8時に69ppm、令和2年8月7日3時に103ppmを記録した。

原因は、ごみ質の変動により燃焼が不安定となり、燃焼空気が不足したことによる。いずれも燃焼空気量の手動介入、炉内酸素濃度設定値の変更及びごみの攪拌による燃焼改善を図り、正常な燃焼状態に回復した。

※③ 渋谷清掃工場 1号炉 令和2年8月7日(金) 5:00

排ガス中の一酸化炭素濃度が、一時間平均値で86ppmを記録した。

ごみ質の変動により燃焼が不安定となり、燃焼空気が不足したことが原因と思われたため、燃焼空気量の手動介入、炉内酸素濃度設定値の変更及びごみの攪拌による燃焼改善を図ったが、燃焼が安定しなかった。調査のため令和2年8月7日に焼却炉を立下げた。炉内の不適物除去などを行い、8月24日に焼却炉を立上げた。

※④ 練馬清掃工場 2号炉 令和2年8月24日(月) 6:00

排ガス中の一酸化炭素濃度が、一時間平均値で102 ppmを記録した。

原因は、ごみ質の変動により燃焼が不安定となり、燃焼空気が不足したことによる。燃焼空気量の増量、ストーカの運転調整及びごみの攪拌により燃焼改善を図った。その結果、正常な燃焼状態に回復した。

令和2年度 維持管理状況(8月1日～31日) <工場設置計器の測定結果>より